夕刊 常磐毎日
発行所 平市田町75 常磐毎日新聞社 電話1210番
編集兼発行人 吉田甫

消防問題で紛糾
賛否同数で委員會附託

（昨廿七）二十七日午後一時から再会した平市会は、消防団再編成議案で果然紛糾し、質問が終つて金古議長から〝各議案を委員会附託にしたいと思うが〟と発言あるや、鈴木（寅）強口、鈴木（新）鈴木（政）議員ら交々起つて〝他の議案は賛成であるが消防団設置条例設定の件については委員会附託絶対反対である〟と次々に反対意見を述べ、賛否両者で激しくおうしうした。

鈴木（寅）議員から反対の理由として

「一昨二十五日の協議会に於いてこの問題は重大であるから慎重を要する、充分検討の上提案するということになつていたにも拘らず、一昨日の今日検討もせずに提案するとは無謀である、平市の今までの消防団の問題を顧みて、過ちのないよう充分の検討を要望しておいたところが日曜を一日置いた今日消防団員の総意であるとして、提案してある、もしこの単位団消防に再編成して、万一われわれの生命財産を預る消防団の組織が、政治結社の如き動きの温床となつたらどうする、その時の市長は責任をどうとるか御伺いしたい〟

と述べれば

野沢議員が起つて、

「政治結社とはおだやかでない」と言葉じりをつかんであげ足をとれば

鈴木（寅）議員再び起つて

「一昨年の九月一日の日に、野沢議員は大事な諮線問題陳情のために上京すべく同伴者らが切符まで買いもめて待つていたに拘らずとうとう姿をみせなかつた、その時の話では、前の常毎編集長池田一夫君が消防問題を批判した記事のことで、集楽館にいるところを一部消防団員らに押しかけられ包囲されたが、その時かげで団員らの糸をひいたのは野沢議員であつたと市民から聞いている〟

と発言するや、

野沢議員は

〝今の言動は私の人格を傷けるも甚だしい、真想を調査して、徹頭委員会にかけて欲しい、私は名誉を損で告訴する〟といきり立てば議場騒然となり、

強口市議「他市が一本化そうとしている時、平が単位団を作るのは逆コースだ、新らたに合併する一町三ケ村は暫定的処置としてやむを得ないが、何も問題の起つていない旧市を単位団に分けるのはおかしい、紛糾をまねくもとではないか」

とするどく質問

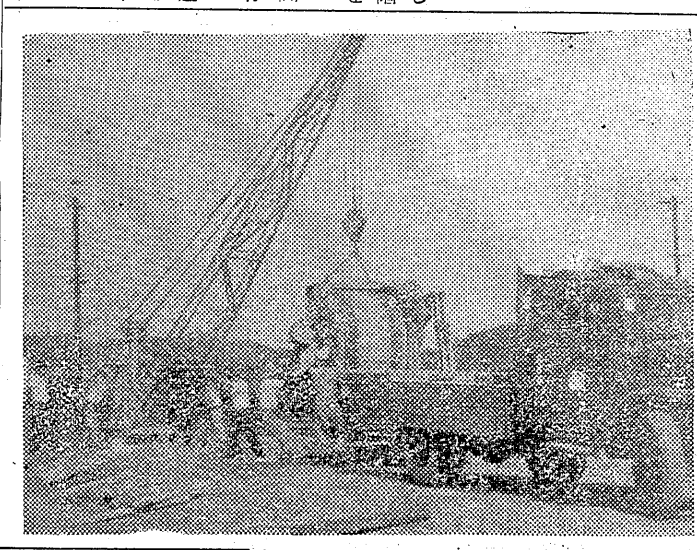
鈴木（政）議員から消防の提案を取消して欲しいと、議案却下の要望も飛び出し、紛糾に紛糾を続けた。

多田井議員

「単位団の例はすくないが団員の要望もあるので委員会は承認した従来平消防団は団長問題にからんでここ数年来暗いかげがさしている、個人の考えとしては一本にしたいが、合併の当初であり、段階的に連合体を作つて運営の困難を皆さんの協力でやつて行きたい」

と委員長として答弁、午後五時同議案を委員会附託にするかどうかに就いて、裁決に入り、

十二対十二の同数のため、議会運営規程に基き、委員附託とすることに決定、廿八日午後二時から本会議を続行することで散会した、従つて本日は午前九時から各部委員会を開き、午後二時から本会議を続行する。



生活調査
常磐市婦人会

常磐市婦人会では十月一日から会員四百名に対し、職業、年令、子供数、主人の職業、協力程度、読書などについての生活調査を行うことになつている。

もめた議員定数
審議持ち越して再會

常磐市会

正副議長の辞表騒ぎから、旧磐崎村選出議員の総退場という地方自治市町村議会に稀な波らんを引起した、常磐市議会三日目の二十七日は、午前九時から運営委員会を開いて、議案第三号市議会議員選挙区設置条例設定の件の取扱いについて慎重審議したが結論に至らず会期延長日程も余りないため、この議案を最終議会の三十日まで持ち越し審議することにして妥結午後一時半からようやく湯本公民館ホールに三日目の市議会を開会した。

当日の市会では、合併後の架空工事として市民の関心をかつた磐崎村内の消火バツク工事問題について旧磐崎時代の引継ぎ事業として七十五万円を計上したこれは十二日村会で決議し三十五万の予算をとつたが財政面の点から今年三月二十八日の村会でさらに決議したので追加更正予算に計上したのである、との矢吹市長から提案説明あり質疑応答に入るや、

矢吹市長

「議決書をお見せすると前置きして議決が財源のうらづけないので常磐市で予算計上した、工事は急を要したので工事は完了しやるべきものをやつたのだから払うべきものは払うとの観念で了承してもらいたい」と答弁、

駒木根議員

「財源がなく新たに予算計上するならば何故議会にかけない、特に工事は特名で竣工させたと聞くが議員として市長答弁では納得いかない、十二月村会、三月二十八日の村会で議決しているというが、議決していないと思う議決書を押見したい、さらにすでに工事完了の消火バツクに追加更正予算七十五万円計上したことは不当であり工事後の予算化は専決処分議案ではないかと思うがどうか

駒木根議員

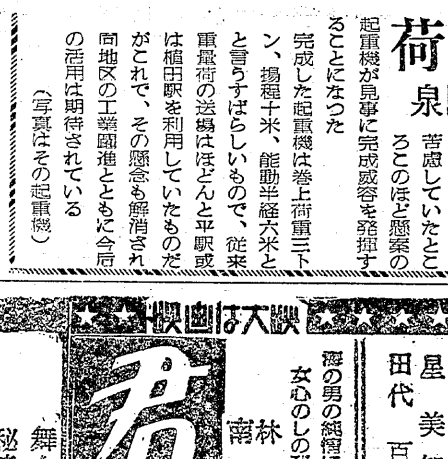
「合併当時現金はなかつた状況の旧磐崎でなぜ決議しなければならなかつたか、さらに消防委員会が工事の出来上るまでわからなかつた二点に割切れない問題点があると思うが会期日程も僅かであるし、両日午後四時から三小校建築検収もあるので消防委員会にこの問題を付託して審議し、委員長報告で了承する点は了承してはどうか」との質問あつて一応この問題を打切り、議案第一号は各委員会に付託され午後四時閉会した。

防火水槽問題で
激しく当局にくい下る

駒木根議員は、十二月村会、三月二十八日の村会で議決しているというが、議

荷役に新威力
成完機重起に駅泉

国鉄泉駅では磐城市の発展に伴い、工場誘致等による重量品、長大物の到着が活発になつて来たがその荷役はいずれも人力により行われているので能率が上らず苦慮していたところこのほど懸案の起重機が見事に完成容を発揮することになつた



（写真はその起重機）

完成した起重機は巻上荷重三トン、揚程十米、能動半径六米とと言うすばらしいもので、従来重量荷の送場はほとんど平駅或は稲田駅を利用していたものだがこれで、その懸念も解消され同地区の工業開進とともに今後の活用は期待されている

天氣予報

（明日）北寄りの風日中一時雨の風始め曇り小雨がのこりますが後晴てきましよう
（海上）今晩は見とおしが悪く多少風波がありますが明日は次第におさまつてきましよう。

名げん「山彦」の争奪をめぐつて
風雲うず巻く修羅の乱刃！
日活秘蔵の阪妻映画 最大の傑作
遂に登場！

志村喬

阪東妻三郎（二役）　花柳小菊

愛染かつら

上原謙　田中絹代　佐分利信

映画は大映

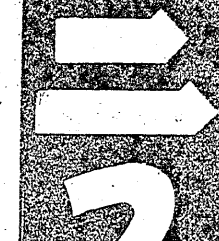
旗本退屈男

謎の百万両

市川右太衛門　藤夕起子　星美智子　田代百合子

宝の山に乗り込んで!!
久方振りの諸羽流青眼崩し!!
さつ爽右太衛門のお家芸!!

29日より　世界館



二つの愛

大岡政談

地獄谷の対決

日本勝つか米国勝か！
鋼肉弾相うつ
スナグル・ミスター対力道山

山田五十鈴　岸恵子　三島耕　伊藤雄之助

29日より　平館

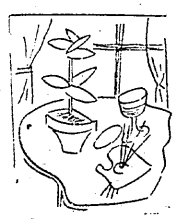
君待船

林成年　南田洋子

完結編
三日月喜子「笛吹童子」姉妹篇
霧の小次郎

霧の小次郎　大友柳太郎
胡蝶尼　高千穂ひづる
三日月喜子　東千代之助

映画は東映



時出 すつかり酔が覚めてみ
しし て困り果てた〝マムシ
出思 の棺三〟さんも、その
けい 夜は酒の勢いをかりて
かの 待合の一室に一夜を明
代 かしたが、さて翌朝眼がさめてみるとフンドシ一本ではどうにも動きがとれず、誠に困つたらしい、多分そう来るだろうと思つたので、昨夜のうちにこのてんまつを署長の耳にだけそつと語しておいて、僕は翌朝の一番列車でS市（県庁所在地）へ逃走してしまつた、

本部に送られた官服 果して權三の行手は 【31】

そうとは知らず權三さん、ヤツキになつて〝服を返せ〟と騒んに電話を寄越したり、部下を走らせたりしたそうである、勿論その日は病気を理由に欠勤して〝済ませんが、僕の顔に免じて新聞に書くことだけは一日待つてくれ〟と部長の頼みである。それじや一日待ちましようと言うことで程んど一日中待合から官服の行方を捜査して暮らしたという。

支局に着いた私は、ことのいきさつを支局長に報告して、警察部相当の記者と連れだつて警察

部長に面接、今日までの彼の悪業の数々を並べて、説明をしている所へ、例の官服一式を包んだ小包が届いた、警務課長を呼びつけて色々相談していたが、〝そう言つたつて、君だつて悪いよ、官服窃盗ちやないか〟と口をすべらしたから、むつとして来て、

〝何…窃盗だ、面白い、窃盗で逮捕してもらおう、貴方がそう言う気なら、私も先刻の部長との話を取消そう〟

課長はしまつたと思つたがもう遅い、もう一度部長室へ逆戻りして、その旨を告げ、部長の話を聞こうともせずサツサと廊下へ飛び出し、〝T君（警察部担当記者）すまないが、記事を送つてくれ、オレは課長の手でしばつてもらうから〟とばかり課長室へ押しかけて「サアしばつてくれ」と動かない勿論T君も、心配が半分、ことの成行を見定めるのが半分という気持から、一緒について来ての掛合である、

〝オレを逮捕したら、逮捕したと、書いてくれ〟と動かない、そのうち部長がのこのこその部屋へやつて来た

〝何を馬鹿なことで騒いでいるんぢやい、まあY君私にまかせてくれ、O君（課長）僕が仲介するから、素直にY君に謝り給え〟

（続）

これで良いか

（既報）九月平競輪前節二日目の十八日に場外車券売場で十一レース連勝式三ー三の当り車券一束二十枚綴りが紛失し、うち七枚が払いもどしされた事件は、競輪関係者の内部的な仕業とみられて今後の競輪運営に大きな支障をきたすものとして注目されていたが、二十七日朝に至り、競輪課当事者の手違いから十一レースの車券廃棄処分の際問車券を廃棄せず、その車券を十二レースに発売したことから起つた不祥事と判明、当局に新たな批判が集中されている。

車券の盗難事件
實は当局の職務上手落

事件は十一レース当り車券三ー三は七十枚買われていたのに、実際払出した枚数は七十七枚と多く不審に思つた当事者が払戻し車券を調べたところ十一レース車券締切りと同時に廃券にしなければならない一束（二十枚綴り）が紛失しているのに気づき、此の騒ぎとなつたもので平競輪課では当事者が盗むと言うことは考えられない、また二札が行方不明となることもあり得ないとの見方から十二レースに売つたのではないかと捜えを調べたところ、果して十二レースに発売していたことが判つた。

売つた二十枚のうち七枚だけが払戻しされていることについては、十二レース終了後問題の車券を握つていた人が何気なしに自分の車券を見た瞬間十一レース三ー三の当り車券であることに気つき、車券の払戻し時間も有効であるところから思わぬ〝もうけ〟ものとばかり払戻したものと見られている。残りの十三枚はおそらく破棄されたものと思われる、事件の原因は

◆十一レース車券の廃券処分をおこたつたこと。

◆誤つて十二レースにその車券を発売したこと。

◆良く調べずに払い渡したことなどが挙げられ、今後の競輪関係者の車券に対する注意を呼びかける声が各方部から持ち上つている。

なお問題投票係主任鈴木農民は二十七日早朝仙台通産局に出向詳細を報告した、これは通産局でも誤払としての処置をとつてけりつくものとみられている。

一デー 里親

社会福祉事業団主体の二十九年度「里親デー」は来る四日から一週間各地で行われるがこれに因んで十六名の里親を持つ石城地方でも「巡回相談所の開設、児童問題相談所開設」今後まだ増えるものと予想され将来里親制度を左右する問題でもあるとして大いに尽力することになつた。

なお同期間中に優良里親を全国から選出、厚生省から表彰することになつているが石城地方ではこれに伴い上遠野字滝農業佐坂通行（六五）さんを推選、県を通じて中央に報告することになつている。

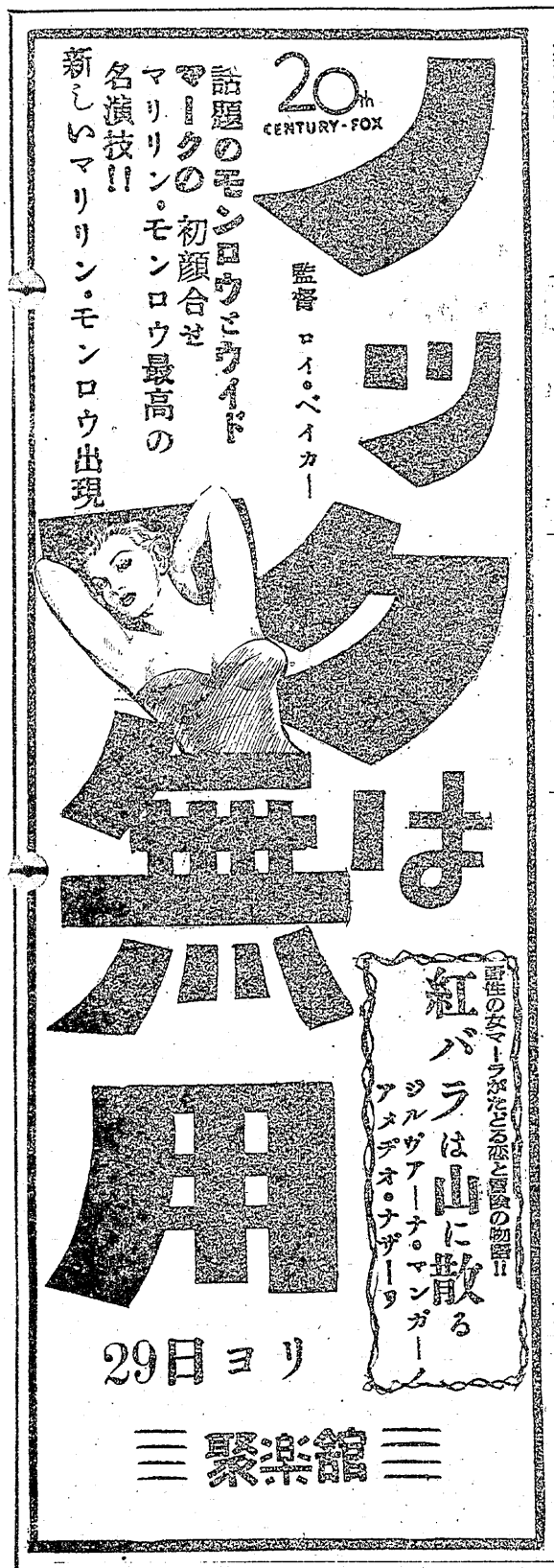
炭礦の災害復舊
組合代表ら陳情に上京

十四号台風で多大の被害をうけた中小炭礦は双葉石城郡下で二十六炭礦を数えているが、損害は約三億円に上つており、現在常磐、山口、北海道より通産省に、中小炭礦の事業いんかつのため政府からの融資、保険金の危機にあるので失業保険金を納めることが出来ない場合は政府でこれを補償することなどを要求しているが、二十七日早朝、隅田川炭礦松本副委員長らが二十五炭礦の復旧に必要な資材、資金の交附について、中央本部を通じ関係当局に陳情のため上京した。

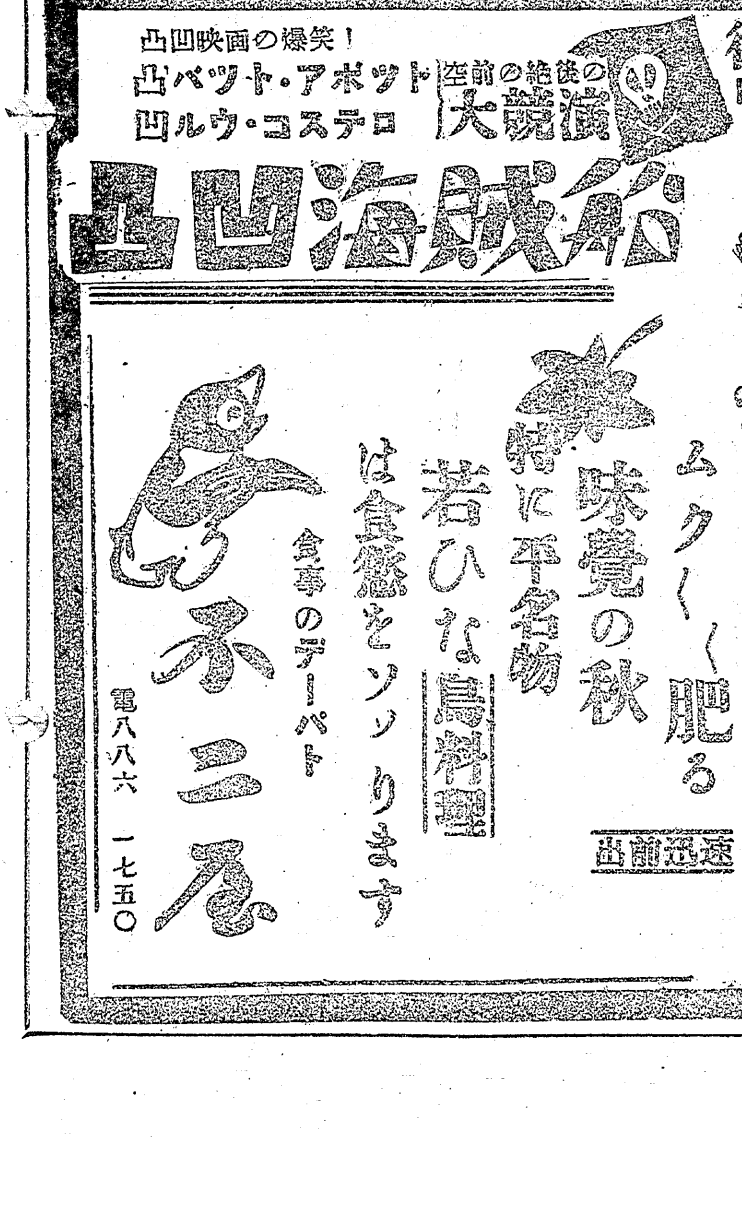
なお常磐炭礦、全炭礦でも県と政府に陳情し、復旧に力を注ぐことになつた。

グルッペ会

常磐市シヤソテングルツペでは十月三日湯ノ嶽で撮影会を開催する



明るい
静かな
スタンドバー
若草
平市紅小路（大床横）



ムクムク肥る
味覚の秋
特に平名物
若ひな鳥料理
は食慾をソソります
食事のデーパート
丸ニ
電八八六　一七五〇